ファインダー内の警告表示

ファインダー内表示	内 容
+ * 1	マニュアル露出のとき、絞りの 値を開放側 [数字の小さい方] に しすぎか、被写体が明るすぎる ときに点滅します。
* 2	マニュアル露出のとき、絞りの 値を小絞り側 [数字の大きい方] にしすぎか、被写体が暗すぎる ときに点滅します。
P * 3	ブログラム自動露出のとき、被 写体が明るすぎるか、暗すぎる ときに点滅します。
4	プログラム自動露出で、ストロボ撮影が必要なときに点滅します。 内蔵ストロボを飛び出させた状態で使用レンズの焦点距離が不適切な場合点滅。
表 示 中 の LED全点滅	バッテリー警告。

表示点滅時の撮影方法

※1:絞りを小絞り側[数字の大きい方]にして点減 をなくしてください。通常のマニュアルの露出 合わせて撮影ができます。

> 点滅が消えないときは、NDフィルター[光量を 減らすフィルター]をご利用ください。

※2:絞りを開放側[数字の小さい方]にして点減を なくしてください。通常のマニュアルの露出合 わせで撮影ができます。

点滅が消えないときは、ストロボなどをご利用 ください。

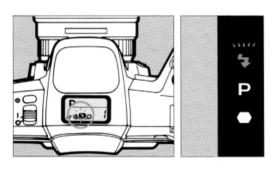
※3:被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを ご利用ください。被写体が暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

45)

- 警告は、点滅によって知らせます。
- * 上表の いい は、点滅表示です。

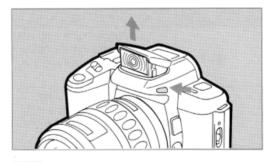
13

内蔵ストロボの高度な使い方



日中シンクロ撮影

分割測光ですから、人物が暗くなってしまうような逆 光をカメラが自動的に判断し、表示パネルの ★ お よびファインダー内の ★ を点滅させます [プログラ ム自動露出の場合のみ]。



(1) ボタンを押してストロボを飛び出させて、内蔵ストロボをご利用ください。

内蔵ストロボは、ブログラムTTLオートストロボ [51 ページ] として働きますので、人物と背景のバランスがとれた写真を簡単に撮ることができます。

- * 逆光でも主要被写体が画面の中央にない場合は、 表示パネルの → およびファインダー内の → が点減しないことがあります。この場合にも、内 蔵ストロボをご利用ください。
- * 逆光以外でも被写体の顔が陰になってしまうよう な場合に、内蔵ストロボを利用すると、陰のとれ た自然な写真が撮れます。

マニュアル露出のストロボ撮影

ビントの合う範囲 [被写界深度] を変えて撮影したいときなどに、ご自分で絞りを自由に調節してストロボ 撮影ができます。絞りを A 位置以外にしてください。 まず使用する絞りから、ストロボでの撮影ができる距 離範囲の目安を計算します。

遠距離側の目安 GN÷使用絞り 近距離側の目安 遠距離側目安÷5 ただし、0.7m以下の近距離では使えません

※GN=ガイドナンバー

撮影する距離が先にわかっているときは、撮影距離から使用する絞りを計算します。

GN÷撮影距離=使用できる絞り

計算で出た数字が例えば「3」というように、レンズの 絞り値の「4」、「2.8」のいずれでもないときは、一般的 に数字の小さい方の「2.8」に合わせます。

なおGNは使用するフィルム感度 [ISO] により下の表のようになります。

ISO25 → GN6	ISO200 → GN17
ISO50 → GN8.5	ISO400 → GN24
ISO100 → GN12	

ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

- ストロボ撮影の距離範囲を計算します。 GN12÷F3.5=3.4 m 3.4÷5=0.68 m
- 2. 約0.7mから3.4mの範囲でストロボ撮影をしてく ださい。
- 近い物と遠い物を一緒に撮影するときに、遠い方の距離に合わせて絞りを計算すると、近い物に光が当たりすぎて白っぽく「露出オーバー」なります。
- * ストロボを飛び出させている間、ファインダー内 の露出表示はされません。

低速シンクロ撮影をするには

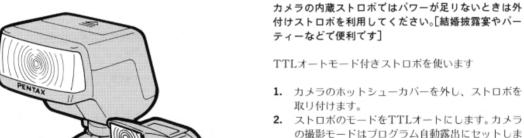
- 1. カメラの露出モードをマニュアル露出にします。
- シャッター速度[1/60秒以下]と絞りを選び、背景 に露出を合わせます。
- 内蔵ストロボを上に飛び出させます。
- **4.** ビントを合わせて撮影します。
- * 低速シンクロについては、51ページをご参照くだ さい。
- * 低速シンクロ撮影では、三脚をご利用ください。



14

外付けストロボの使い方

す。



- ストロボの電源スイッチを入れます。
- ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランブが点灯すると、カメラのシャッターボタンを軽く押したときに、ファインダー内の
 が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- * 充電が完了すると、シャッター速度は1/100に切り 替わります。
- ビントを合わせて撮影します。
- * カメラをマニュアル露出モードにすると低速シン クロ撮影 [51ページ] が可能です。



ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度 に自動的に切り替わる。	0	0	0	0	0
プログラム自動露出では絞りが自動セットされる。	0	0	0	0	注
ファインダー内でオートチェックができる。		0	0		
TTLオートストロボ撮影ができる。	0	0	0	0	
マニュアル露出では低速シンクロができる。	0	0	0	0	0
AFスポットビームが使える。		0	0		
後慕シンクロ撮影ができる。		0	0		
光量比制御モードで撮影できる。		0			

注:AF200S。のみ自動セット可能。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因に なる場合があります。ペンタックス専用オートス トロボの使用をお勧めします。

* 旧タイブの「AF140」や「AF160」および「AF200 S」を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞り に合わせて撮影してください。[AF200SAはブロ グラム自動露出で絞りとシャッター速度が自動セ ットされます。] TYPE A:内蔵ストロボ

TYPE B: AF330FTZ TYPE C: AF400FTZ, AF240FT

TYPE D: AF400T, AF280T, AF200T,

AF080C, AF140C

TYPE E: AF200SA, AF200S, AF160, AF140

49

AF330FTZ

- ブログラムTTLオートストロボになります [51ページ]。明るさに応じて絞りが自動的に変化しますから、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- * 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AF スポットビームを自動的に投光しますので、オー トフォーカスを働かせることができます。
- * オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距 離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- * 光量比制御モードがご利用できます。[ストロボの 使用説明書参照]
- * ストロボのモードがマニュアルでもカメラがブログラム自動露出であれば、自動的にブログラム TTLオートストロボになります。
- * 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを軽く押すとストロボの充電が再開されます。

AF240FT, AF400FTZ

- * ブログラムTTLオートストロボになります [51ページ]。明るさに応じて絞りが自動的に変化しますから、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- * ストロボのモードがマニュアルでもカメラがブロ グラム自動露出であれば、自動的にブログラム TTLオートストロボになります。
- * 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを軽く押すとストロボの充電が再開されます。
- * 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AF スポットビームを自動的に投光しますので、オー トフォーカスを働かせることができます。

AF200T, AF280T, AF400T

- * TTLオートストロボになりますので、日中シンクロ撮影にはお勧めできません。
- * 外光オート [赤・緑・黄位置] で使用すると、絞 リは下表のように切り替わります。充電が完了す ると、シャッター速度は1/100に切り替わります。

	AF200T	AF280T	AF400T	
赤	F2.8	F4	F4	
緑	F5.6	F8	F8	
黄			F11	

[ISO 100の場合]

ストロボ撮影 [使用上] の注意

- ストロボのMS [マニュアルシンクロ]、M [マニュアル] を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りでで使用ください。[TYPE D ストロボ] カメラがプログラム自動露出になっていると、適正露出が得られません。
- 2) 内蔵ストロボとベンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて使用すると、ストロボの機能は外付けストロボが優先されます。各ストロボの充電の完了を確認してから撮影してください。
- 3) 「AF080Cリングライト」をホットシューに取り付けるときは、「ホットシューアダプターF」[別売]を利用すると、カメラの操作がやり易くなります。
- 4) カメラがマニュアル露出の状態で、外付けストロボの充電が完了すると、ファインダー内の露出表示はされなくなります。

TTLオートストロボ:

レンズを通してフィルムに当たる光の反射を直接 測光し、決められた絞りに対して適正露出になる ようカメラがストロボの発光量を自動的に調節し ます。被写体からの反射光だけを測るので、正確 な露出制御が可能です。[対象機種=AF400T、 AF280T、AF200T、AF400FTZ、AF240FT、 AF330FTZなど]

プログラムTTLオートストロボ:

フィルムに当たる光を測光してストロボ発光量を制御するTTLオートストロボに加えて、被写体の周リの明るさに合わせてシャッター速度と絞りが自動的に選択されるプログラム自動露出が組み合わされ、簡単に日中シンクロなどの撮影ができる機構です。[対象機種=カメラ内蔵ストロボ、AF400FTZ、AF240FT、AF330FTZ]

低速シンクロ撮影:

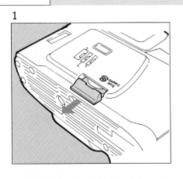
夜景などを背景として、近くのものや人物を撮影するときに使用します。ストロボの光が届かない背景を低速シャッターで写し込み、近くの人物などはストロボで写し込みます。[通常のストロボ撮影では、背景が写りません。]

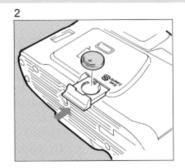
方法については、47ページをご覧ください。

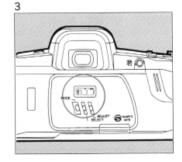
51

15

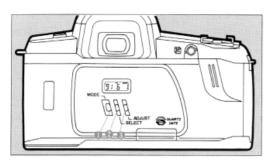
クォーツデートの電池交換







- カメラの裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜き、電池を取り出します。
- 新しい電池の⊕側を上にして電池ケースに入れ元 の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- 電池を入れるとデータが表示されます。表示がでないときは、電池の⊕⊝が正しく入っているかを確認してください。
- データ表示の修正を行ってから撮影してください。 [53~54ページ]
- * 電池は必ず、決められたリチウム電池 CR2025 を 1個使用します。



- MODE モード=切り替えボタン
- ② SELECT セレクト=選択ボタン
- ③ ADJUST アジャスト=調整ボタン

データの修正

1. ❷の SELECT ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番:年月日表示のとき 年→月→日→ 時分表示のとき 時→分→:→

- ❸の ADJUST ボタンを希望の数字が出るまで 繰り返し押し、点減させた数字を変更します。
- * ADJUST ボタンは一回押すごとに数字が一つ 進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送 リされます。
- * データの修正を行うときは、コインなどをご利用 ください。

53

「年月日 | の修正

- ②の SELECT ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点減させます。
- ③の ADJUST ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、❷の SELECT ボタンを押して、点減を止めます。

「日時:分」の修正

- ②の SELECT ボタンを押し、時分秒 [:] 表示 のうち修正したい数字を [秒の場合は:] 点滅さ せます。
- ③の ADJUST ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒[:]を合わせるには、③の ADJUST ボタン を時報などに合わせて押すと 0 秒になります。
- 修正後は、②の SELECT ボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデート使用上の注意

- * 「年月日」と「日時:分」は同時には写し込めません。
- * デートの使用可能温度は約50℃~0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO 25~1600まで のものです。感度のセットはカメラにDXフィル ムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム [ISO 1000以上] を使ったとき は、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中[点滅表示中]は、シャッターを切って もデータは写し込まれません。
- * クォーツデートは、3Vリチウム電池 CR2025 を 使用しています。
 - 電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、新しい電池と交換してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、 万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・ 形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合が あります。ファインダー内の ○ に従って行う手動の ピント合わせも同様です。 そんなときは、被 「82ペー ピジしい距離にあるものにフォーカスロック 「82ペー ジ」をしたり、フォーカスモードレバーを MF にし て、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面で手動によるピント合わせをしてください。

オートフォーカスでピントが合いにくい条件

- AFフレーム [] に白い壁などの極端にコント ラスト [明暗差] の低い被写体がある場合。
- AFフレーム こ に光を反射しにくい被写体がある場合。
- 3) 非常に速い速度の被写体。
- AFフレーム [] に横線のみの被写体および細かな模様の被写体がある場合。
- 遠・近のものがAFフレーム の中で同時に存在する場合。
- 6) 反射の強い光、強い逆光 [周辺が特に明るい被写体]









アクセサリーの注意

次の条件では、オートフォーカスやファインダー内の ○ に従って行う手動のピント合わせができません。ファインダーのマット面による手動のピント合わせをしてください。[57ページ]

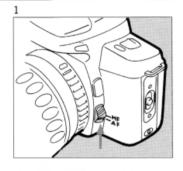
- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタ ッチメント」・「ステレオアダブター」などを 使った場合。
- 2) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。
- 3) 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

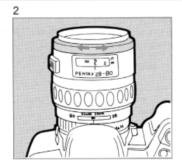
SMCペンタックスFソフト85mmF2.8使用時の注意約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8~4.5でご使用ください。これより小絞り[F5.6~32]にすると、カメラのオートフォーカス[F1も同様]が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞りを使いたい場合は、一旦レンズの絞りをF4.5にセットしてビント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに回して撮影してください。

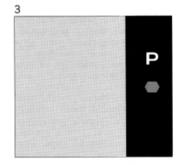
55

18

マニュアルフォーカスでのピント合わせ





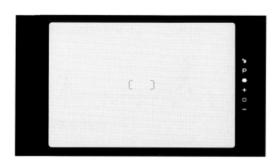


従来のK₄およびKマウントレンズで、開放F値がF5.6 以上の明るいレンズ [F1.2~F5.6] を使うと、手動の ピント合わせを行なうことができます。合焦時ファイ ンダー内の ○ の点灯と電子音が鳴って知らせます。

- 1. $\forall x = x + y = x +$
- ファインダーを覗きながらシャッターボタンを軽く押し、レンズの距離リングを左右に回してください。
- ピントが合うとファインダー内の が点灯して 知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

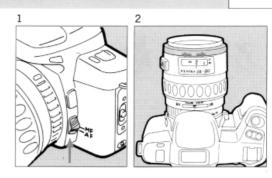
- * K_{AF} および K_{AF2} マウントレンズを \overline{MF} にすると同じ操作になります。
- * 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの 「マウントアダプターK」で取り付けても、ファイ ンダー内の○ に従って行う手動のピント合わせ はできません。
- * ビントが合うと、ファインダー内の 〇 点灯と同時に「ビビッ」と短く電子音が鳴って知らせます。

ファインダー内マット面部分でのピント合わせ



次のような場合は、オートフォーカスやファインダー内の ○ に従って行う手動のピント合わせが使えませんから、ファインダーのマット面部分で従来の一眼レフカメラ同様に手動でピント合わせをしてください。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で ○表示 が点滅するとき。
- 2) 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ベローズ100mmF4、シフト28mmF3.5 [シフト状態]、レフレックスタイブのレンズ。
- 4) 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの 「マウントアダプターK」で取り付けたとき。



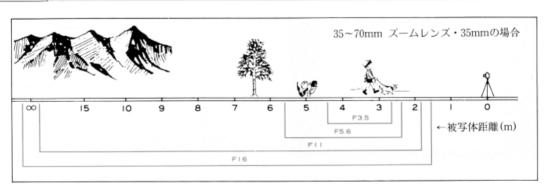
- 1. フォーカスモードレバーを MF にセットします。
- 2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が一番ハッキリ見えるようにビントを合わせ、撮影してください。

応用編

57

20

被写界深度について



応用

被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後 にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界 深度といいます。 ピントの合う範囲

絞り込むほど、広角レンズほど、また、被写体が遠く なるほど被写界深度は深くなります。

絞りを変えることによってビントの合う範囲 [奥行] が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものがあります。